

外国人の見た近代中国

イザベラ・バードの見た
清末の長江
—三峡・チベット・アヘン

京都大学人文科学研究所 教授

村上 衛



耳からの中国と中国語
—倉石武四郎の留学・教育・他者理解

京都大学人文科学研究所 特定助教

温 秋穎



エドガー・スノーが見たもの、
見なかつたもの
—『中国の赤い星』余話

京都大学人文科学研究所 教授

石川禎浩



異境の探索者たち

Seeker in a Strange Land

2026.3.16[月] 10:30~16:00

聴講無料
要申込み

会場 学術総合センター内
一橋大学一橋講堂中会議場

聴講ご希望の方は、右記URLのフォームから氏名・連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）をご記入の上、お申し込みください。【2月27日(金) 17:00締切】。受講票（ハガキ）をお送りいたします。（3月初旬から順次発送）

主催／京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター

京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター
〒606-8265京都市左京区北白川東小倉町47

E-mail kanseki-tokyo@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

URL https://peatix.com/event/4514941



セミナーお申し込み
フォーム

○詳しくは裏面をご覧ください。

外国人の見た近代中国

異境の探索者たち

◎今回の概要

かのマルコ・ポーロの昔、西洋の人々にとって、中国は東方はるか彼方にある憧憬の文明大国でした。やがて月日は流れ、19世紀の近代に再び世界に扉を開いたとき、中国を訪れた西洋人たちは、そこで飢えと戦乱に苦しむ流民たち、開港場で使役されるクーリー（苦力）の群れ、亡国の危機をよそにアヘンに耽溺する士大夫たちを目にすることになります。近代とは中華の伝統への敬意やあこがれの消え失せてしまった時代と言ってもよいかも知れません。けれども、他方で当時、この老大国の再生を願い、真の姿を見つけようとする外国人がいたことを忘れてはならないでしょう。中国大陆奥地まで足跡を残した女性旅行家（バード）、コミュニケーション・ツールとしての中国語を目指した学者（倉石）、そして謎の存在だった中国共産党を初めて世界に報道したジャーナリスト（スノー）、三人の外国人の著作を掘り下げながら、多様にして豊かな姿で描かれた近代中国の魅力を紹介します。

●参加定員／200名（申し込み順）

*定員を超えた場合はお知らせします。

●申し込み期限／2月27日（金）17:00 締切

*申し込みの詳細は表面をご覧ください。

●プログラム

司会 永田知之（人文科学研究所准教授）

10:30~10:45 ◎開会挨拶

人文科学研究所長 森本淳生

10:45~11:45 ◎講演

イザベラ・バードの見た清末の長江——三峡・チベット・アヘン

京都大学人文科学研究所 教授 村上 衛

11:45~13:00 ◎休憩

13:00~14:00 ◎講演

耳からの中国と中国語——倉石武四郎の留学・教育・他者理解

京都大学人文科学研究所 特定助教 温 秋穎

14:00~14:20 ◎休憩

14:20~15:20 ◎講演

エドガー・スノーが見たもの、見なかつたもの——「中国の赤い星」余話

京都大学人文科学研究所 教授 石川頼浩

15:20~15:35 ◎休憩

15:35~15:55 ◎質問への回答

15:55~16:00 ◎閉会挨拶

●会場／学術総合センター内（千代田区一ツ橋2-1-2）

一橋大学一橋講堂中会議場



■会場への交通機関

・東京メトロ半蔵門線

都営地下鉄三田線・新宿線

「神保町駅」A8出口より徒歩5分

・東京メトロ東西線「竹橋駅」

1b出口より徒歩5分

―― 都営新宿線

…… 都営三田線

…… 東京メトロ半蔵門線

―― 東京メトロ東西線

□ 高速道路